

□3月9日説教(隅野徹牧師)短縮版

「初穂とされるための苦しみ」(ヤコブ1:12~18)

ヤコブ書の読者である信徒たちは、「自分をかえりみず、都合が悪いことはその責任を他人や、神に負わせようとする」者たちだとお伝えしてきました。しかし、ヤコブは「クリスチャンとは…思い通りにことがすすまない逆境のときも、ここではあえて『試練のとき』という表現がつかわれていますが、そんな時も神が共にあゆんでくださり、神はいつでも良いものをお与えくださる方だ」ということが16節から18節で教えられました。その生き方がまさに12節にあるような「試練を耐え忍んで生きる生き方」なのです。

「幸いです」という言葉が出ますが、これはマタイによる福音書5章でイエス・キリストがお語りになった「山上の説教」の「8つの幸いの教え」を思い起こさせます。最初にお伝えした通り、イエス・キリストの教えと似た教えの言葉がまさにここででてくるのです。特に「試練を耐え忍ぶ」は、マタイによる福音書5章10節「義のために迫害される人々は、幸いです、天の国はその人たちのものである。」と重ねて読むことができます。

私たちは、ヤコブ書を通して、信仰生活には必ず危機があることを、改めて今日、心に留めましょう。そんな危機の時でも私たちは悔い改めることを忘れ、自己正当化へ走る、言い訳を沢山考えて神の御前でいつの間にか「自分自身を神にしてしまっている」ということが起こりうるのです。しかし、そんな私たちを神は愛してくださり、「永遠の命」を得させたいと願っておられます。そのために「良い贈り物」をおくってくださるのです。その「神の賜る最大のよい贈り物」こそが「神の独り子イエス・キリスト」です。そのことを忘れずに、歩んでまいりましょう。(終)